

おはなし散歩道

さくらとタヌキ

町田市 大澤桃代

「トメ婆さんは爺さんとどこに行きてえんだと。春の田起こしをしなから、村人が噂しておった。タヌキは気になって、トメ婆さんの家へ行った。雨戸は閉まっておった。日暮れにはまだ早え。去年、爺さんが死んで婆さんはすっかり元気を失くしちまった。何度も戸を叩き、婆さんが出て来た。「誰かと思えばタヌキか」クウーン、とタヌキが甘えるように鳴くと、婆さんが麦飯を持って来た。「桜が咲いたら遊ぼうな。こんだ冬は堪えたで」婆さんは言って、雨戸を開めた。タヌキは麦飯を平らげたが味がねえ。あくる日の朝、タヌキは山を走っておった。

「春だ、春が来た！朝早く、ねぐらに薄紅色の花びらが届いたのだ。七国峠の山桜だ。花を見せりや、トメ婆さんは遊んでくれるに違えねえ。タヌキは山道を急ぐ。七国峠は三つ目の峠だ。道端には雪が残っておった。雀が飛んで来て聞く。「タヌキとどこ行く？」「七国峠の桜が咲いとる」「えっ、あんだ遠くへ！」雀は呆れる。七国峠の桜は辺りで一番に咲くけど切り立つ崖つづちだ。「トメ婆さんに見せるだ」「そうか……氣いつけな」雀は言って、チュンチュン、と青い空に舞う。「空が飛べたら、崖でも婆さん家でも、ひとつ飛びで行けるに……」タヌキは首を振り走る。もうへトへトだ。二つ目の峠に出ると、七国峠の桜が見えた。あと、ひとつ走りだ。タヌキは藪を駆け抜け

る。キジの身体をかすり、にらまれる。すまねえと思うが、それどころじゃねえ。背中ではキジが、ケーンと鳴く。フーツ、フーツ、タヌキの息があがつとる。倒れそうになりながら、ようやく崖にたどり着いた。見事な山桜が目の下にあった。どうすべえ。来るには来たが、途方に暮れた。桜の木は崖の途中に咲いとるが、枝は峠に届かねえ。おまけに、峠から谷の様子は見えねえだ。枝を折るにや切り立つ崖を下りるか、木に飛びこんで枝を手折り、幹を伝って谷底へ下りるかだ。体が枝に引っ掛からなかつたら、真つ逆さまに落つちて、お陀仏になるかもしんねえ。チュンチュンと、空では雀が輪を描く。遠くでケーンケーンとキジが鳴く。迷うタヌキを笑うみてえに。タヌキは、覚悟を決め

て枝に飛びこんだ。目の前が桜色になって、夢中で枝を手折る……。気がつくど、タヌキは谷底の川べりにいた。は桜の枝を持っておる。木を伝って下りるはずが、滑つて落ちたに違えねえ。幸い柔らかい雪の上だった。いて……と、タヌキが立ち上がったとたん、「タヌキどん！」「でえしようぶか！」雀とキジがやって来た。「本当に峠まで来るとはな」「よく走ったもんだ」雀とキジは口々に言う。「婆さんにやるだよ……」タヌキの言葉に二羽が頷く。「わかつとる。オレたちも婆さんから餌を買つとるだ」キジが言うど雀が答える。「優しい婆さんだが」「婆さんのためなら、桜の枝くれえ折つただに」二羽が来てくれた訳がわかった。タヌキは顔を



(さし絵・小出 茂) (完)

上げ手や足を動かす。擦り傷の他、怪我はねえよ。うだ。タヌキを見て二羽が笑い転げた。何だあ？とタヌキは谷川に顔を映した。タヌキの顔中に、桜の花びらがくっついておる。おまけに、頭にはかんざしみてえに桜が刺さつておる。タヌキも噴き出した。タヌキどん、かわいいが！「手も顔も、見事な桜だよ」一匹と二羽は、婆さんの村へと山を行く。タヌキの顔と頭には花がいつたまんまだ。やけに、日差しが暖つけえとタヌキは思う。

「生」の輝き

シンソソソ歌手 友納あけみ

暦の上では春を迎えたものの……寒い日が続いています。今年の冬は格別おまけにインフルエンザの大流行！毎日、マスクに手袋、マフラーに厚手のダウン……南極探検隊員みたいな格好で出掛けています。これはすれ違っても絶対わからない……♪♪春よこい♪♪

この寒さを吹き飛ばすほどの平昌から送られてくる熱い選手達の姿は、いろいろなことを語りかけてくれます。生きるということ……打ち勝つということ……諦めないということ……人は鍛錬することで、あんな事までできるようになる……あんなにも強い精神を持つことができない……あんなにも凛とした研ぎ澄まされた表情を獲得することができる……そして、それでも、どんな

に頑張っている、天が味方をしてくれないと、勝利を手にいれることはできない……風を読み、氷をつかみ、雪を蹴り、命をも懸けているかのようにならぬ姿……そのドラマ！映し出される表情！まるで、人生の縮図を、そのもとも輝きを持って、瞬間、瞬間を見せられてるような感じがします！

映像がどんなに巧妙になつても、生きている生の人間が、オンタイムで繰り広げてくれるこのドラマに勝つことはないでしょう。何が起ころか分からない、一瞬先は誰も想像できない！些細な変化が思いがけない結果をもたらす……その危うさみたいなものに「美しさ！」は裏打ちされているのかもしれない。やっぱ「生」に勝るものはないです。素晴らしい時を体験させてもらった様な感動を味わわせてもらいました。



パーチャルなゲームや

高尾山山内八十八大師巡拝のご案内

多くの方が参拝できますよう左記のように二つのグループに分け、途中(山上十二丁目茶屋前第十七番札所)で合流し、いっしょに巡拝致します。

- A、従来通り、不動院から歩く。
- B、ケーブルを利用する。(琵琶滝周辺のお大師様は巡拝できません。)
- ※ケーブルを利用する場合、代金は自己負担になります。
- 日程 五月八日(火)
- 行程 山麓不動院↓琵琶滝↓仏舍利塔↓本堂(護摩修行)↓坊入(昼食)↓下山(一号路)↓不動院着(送法案)↓解散
- 参加費 五千円(昼食代、保険料含む)
- 集合場所 山麓不動院(八時半集合)
- 申込方法 ハガキに郵便番号、住所、氏名、生年月日、性別、電話番号を明記の上、左記までお申込み下さい。
- 締め切り 四月二十七日(金)
- 〒一九三二八八八六
- 八王子市高尾町二七七
- 大本山高尾山薬王院 八十八大師係
- *電話でのお申込みは承り兼ねますのでご了承下さい。
- *申し込み締切り後、請け書(行程表・持ち物等)をお送り致します。